



岩船魂

村上市立岩船小学校
学校だより No.10
令和7年2月15日
<http://www.iwafune.ne.jp/~iwax2-10>
E-mail:school@iwafune-e.murakami.ed.jp

めざす岩船っ子の姿（教育目標） 「深く考え 優しく思いやり たくましくやりぬく子」

『明るいことばをたくさんつかおう』

校長 佐藤 進

表題「明るいことばをたくさんつかおう」は、先般行われた「ファミリー長縄大会」のめあてです。長縄大会というと、「限られた時間の中で、できるだけたくさんの回数を跳ぶ」というイメージをお持ちの方も多いと思います。実際、子どもたちは目標の回数を目指して、できるだけたくさん跳ぶことに挑戦していました。しかし、第1の目的は、たくさん跳ぶこと以上に「明るいことばをたくさんつかって」縦割り班のファミリーが絆を深めることにあります。

練習が始まったのは、1週間前からです。ファミリー班には、長縄が得意な子も苦手な子もいます。1年生もいれば6年生もいます。特に1年生は、高学年のように連続して跳べる子はほとんどいません。回っている縄を見て首を縦に振りながらタイミングを図り、行けると思った瞬間に縄の中に入っていきます。3回くらいで跳べる子もいれば、20回くらい回してやっと決意を決め跳ぶ子もいます。その間、同じファミリーの子どもたちは、その子がタイミングよく跳べるように、「できるよ」「大丈夫」「がんばれ」と応援の声が飛び交います。失敗して足がからまることもあります。無事跳べたときには、ファミリー班の子から拍手や「やったね」の声が上がり、跳べた子も得意顔です。休み時間もファミリー班の垣根を越え、学年に関係なく長縄練習をし、日を追うごとに上達していきました。

そして本番。体育館にはピリピリとした緊張感が漂います。長縄を回す方も跳ぶ方も真剣そのものです。進行の「用意、始め」のかけ声とともに、「1、2・・・」と声を揃えて跳んだ回数を数えていきます。リズム良く順調に回数を重ねる班もあれば、なかなか回数が増えない班もあります。それでも、「いいよ」「大丈夫」「すごい」と「明るいことば」が体育館中に響き合っ、長縄大会が進んでいきました。その結果、多くの班が目標としていた記録を超え、歓喜に包まれました。また、記録を伸ばせなかった班も、明るいことばをたくさんもらい、勇気と自信をつけることができたのです。どの班も協力し、認め合っ、絆を深めた長縄大会でした。

ピグマリオン効果という言葉をご存知の方が多いのではないのでしょうか。ピグマリオン効果とは、「人は、第三者から期待されると、期待に沿った成果を出す傾向にあるという現象」を指します。その具体的な方法は次のようになります。

【「ピグマリオン効果」を活用する方法】

- ① 肯定的な態度で接する＝「君なら大丈夫」というシグナルを送る。
- ② 結果だけでなく過程も評価する＝努力してきたプロセスを評価する。
- ③ 任せたら余計な口出しをしない＝事あるごとに口を挟まず、ヒントを出す程度に。
- ④ 大きな期待をかけすぎない＝重圧になるような過度な期待はしない。

「知って得する、すごい法則77 清水克彦著 中公新書」より

今回の長縄大会において、明るいことばは、苦手な子にとってのピグマリオン効果になったことでしょう。誰しもできないことができるようになるには、ある程度もしくはかなりの努力が必要です。その後押しをするのが、今回のように同じ班の仲間や友達や教師、そして、家族の明るいことばです。どんなに困難なことでも、明るいことばは子どもたちの心に響き、その期待に応えてくれるはず。そして、互いの絆も深まることでしょう。

